

平成23年度事務事業評価シート(平成22年度分)

予算科目	会計	一般会計	001	款	02	項	01	目	11
事務事業名	市内循環バス運行事業								
担当部署	企画部総合政策課	0202000	電話	63-1111			内線	236	

◆事務事業の位置づけ

総合計画の体系	施策の柱	04:生活の基盤が整ったまちづくり
	施策の大綱	02:公共交通の整備
	施策	02:バス運行対策
	施策の内容	02:循環バス等の運行
根拠法令等	大仙市コミュニティバス等運行事業実施要綱	

◆計画Plan

事業の目的 (何のためにこの事業を行うのか)	市内において、高齢者などの交通弱者が利用しやすい快適なモビリティを確保するとともに、空洞化の進む中心市街地の活性化と公共公益施設の利用促進を図る。
事業の対象 (事業の対象となる人、物など)	大仙市民、観光客など
事業の内容 (具体的にどのような活動をするのか)	大曲バスターミナルからJR大曲駅、商店街、官公庁、病院、特別養護老人ホームなどの公共施設を循環運行する。 ・運行内容:1周9.7km1系統を約40分で1日8便運行(午前9時～午後4時) ・利用者負担:1人1回200円 ・運行主体:羽後交通株式会社
事業の成果 (どのような成果を期待するのか)	公共交通に頼らざるを得ない市民の通院・買い物等日常生活の足の確保及び中心市街地活性化を期待する。

◆実施Do

項目	名称	単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度
活動結果 (事業の活動量を測る)	① 年間運行日数	日	364	364	364
	②				
	③				
成果 (事業の成果を測る)	① 利用者数	人	20,304	17,219	16,812
	②				
	③				
投入コスト	決算額		6,282千円	7,330千円	6,875千円
		一般財源	4,763千円	5,816千円	6,118千円
	人件費		2,141千円	2,114千円	2,140千円
		一般職員の年間従事人数	0.3人	0.3人	0.3人
		一般職員以外の年間従事人数			
	総コスト	(決算額+人件費)	8,423千円	9,444千円	9,015千円

事業を取り巻く環境	19年度に策定した「大仙市の新しい公共交通計画」により「バスは200円、乗合タクシーは500円」とルール化を図った。22年度においては、20年度におけるバスの発着地点となるジョイフルシティ大曲の閉店、利用料金の100円値上げの影響を引き続き受け、循環バス利用者はさらに減少している。また、22年度に策定した「第2期交通計画」、「中心市街地活性化基本計画」において、循環バスの地域ニーズに沿った運行が求められていることから再編の検討が必要としている。
-----------	--

◆評価Check

評価項目		評価	
必要性	①【市民ニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていませんか	A 薄れていない B 薄れている	B
	②【市が実施する必要性】 市が実施主体となつてこの事業を行うことは妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	③【計画上の位置づけ】 施策を達成するための手段として妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	評価の理由	循環バスは、本市の中心市街地活性化を目的に運行しているが、平成20年度の駅前商業施設の閉店など停留所周辺の環境が変化しており、利用者が大幅に減少している状況である。しかしながら、既存の生活バス路線を補完し、医療機関や商店街、公共施設などの都市施設と住宅街などを結ぶ重要な役割を担っているほか、交通弱者の生活の足としても欠かせない交通手段となっていることから、市民生活を維持していく上で今後も必要な取り組みである。	
有効性	①【成果】 活動結果に対し事業の成果は順調に上がっていますか	A 上がっている B 上がっていない	B
	②【活動内容見直しの余地】 事業の成果をさらに向上させるため、事業内容に見直しの余地がありますか	A 余地はない B 余地はある	B
	評価の理由	年間1万6千人を超える利用があるものの、人口減少や少子高齢化、郊外への大型小売店舗の出店、駅前大型小売店舗の閉店などの影響もあり、その利用が年々減少している。今後、中心市街地活性化基本計画において実施されるイベント・事業等との連携やルートの見直し等の取り組みにより、利用者の拡大・まちなかの賑わい創出に結び付けてまいりたい。	
効率性	①【民間の活用】 指定管理者制度を含む民間委託等により、コスト削減できませんか	A できない B できる C 指定管理導入中	B
	②【他事業との統合・連携】 他の類似事業との整理統合や、関連事業との連携は可能ですか	A できない B 可能である	B
	③【人件費の圧縮】 適正な人員配置(従事職員数、臨時雇用等)により、人件費を削減できますか	A 削減できない B 削減できる	A
	④【コストの縮減】 上記以外の方法で、事業の成果を維持しながらコストの削減、またはコストを増加させずに事業の成果を上げることはできませんか	A できない B できる	B
	評価の理由	高齢化社会の進行により、今後車を運転できない高齢者や通学生の日常生活の足の確保が困難になること、また、中心市街地の活性化が持続可能なまちづくりを推進する上で重要な課題であることを踏まえ、本事業については効率性の面だけで判断できないものと捉えている。今後は、生活バス路線維持事業と連携しながら、利用者ニーズに対応した運行への再編を検討するとともに、利用促進策を講じ、コスト削減に努めていく必要がある。	

◆改善Action

総合評価 (今後の方向性)	改善策	評価の理由 今後の改善策等(いつ、何を、どのように)
改善	A 現状のまま継続	利用者減に歯止めがかからない状況ではあるが、現実には年間延べ1万人～2万人の利用者がいる重要な交通システムであることには変わりはない。本年度策定した第2期地域公共交通計画において、現在のルートや停留所の利用状況を検証し、ルートの見直しや新たな停留所の設置等を検討することとしているほか、利用者増を図るための回数券の発行を検討するなど利用しやすい循環バスへの転換を図ることとしており、これら計画を着実に検討・実行することにより改善を図っていきたい。
	B 改善しながら継続	
	C 拡大	
	D 縮小	
	E 廃止	
	F 終了	